

北海道新幹線札幌延伸に伴う鉄道物流のあり方に関する 有識者検討会議（第 2 回）の開催結果について

1. 会議の概要

(1) 日時

令和 6 年 3 月 22 日（金）16 時 00 分～18 時 00 分

(2) 場所

TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 ホール 5 H

(3) 出席者

- ・ 学識経験者 北大公共政策大学院 石井客員教授、北大大学院 岸教授
東京海洋大 兵藤研究科長、東京女子大 二村教授【座長】
- ・ 関係団体 道経連、道商連、ホクレン、道機械工業会、道消費者協会
- ・ 鉄道事業者 JR 北海道、JR 貨物
- ・ オブザーバー 開発局、経産局、地方環境事務所、農政事務所
- ・ 事務局 国交省鉄道局、運輸局、北海道総合政策部

(4) 議事

① 関係者ヒアリング

運送事業者から北海道一本州間の鉄道貨物輸送の現状・課題等を聴取
[ヒアリング対象] 公益社団法人全国通運連盟、日本通運株式会社、
ヤマト運輸株式会社、日本郵便株式会社

② 意見交換

(5) 主な意見

- ・ トラック輸送や海上輸送など、全ての輸送モードを選択できることが重要。そのひとつとして鉄道貨物ネットワークの確保は必須。
- ・ モーダルシフトにより、地域内の短距離をトラックで、拠点間の幹線を鉄道や船舶で輸送することで物流全体の効率化に繋がる。
- ・ 各輸送モードを「時間」、「安定性」、「価格」、「環境負荷」などの観点からどのように組み合わせるかが重要。
- ・ 選択肢が狭まるとサービスレベルに影響するため、安定的で多種多様な輸送手段の確保が必要。貨物鉄道の維持・確保のため利用拡大に向けた検討を進めている。
- ・ 送達速度などの輸送時間より、持続可能な輸送方法の重要性が受け入れられれば、貨物鉄道の利用が更に拡大する可能性あり。

2. 今後の対応

- 第 3 回会議（令和 6 年 6 月頃の開催を予定）での事業者（荷主企業等）へのヒアリングの実施に向けて関係者と調整を進める。